

KITANO **きたのみどり** MIDORI

北海道立林業試験場 緑化樹センター

No.
1

緑化樹センターの開所にあたって

北海道立林業試験場 緑化樹センター所長 池田 功

近年、みどりとのふれあいや自然に対する関心とともに、快適な環境への欲求が高まる中で、環境保全が世界的な共通の課題となっており、今後とも、みどりづくりに対する需要がますます多様化し、増大するものと考えられます。

こうしたことから道では、人と自然との共生を基本とした『みどりの環境づくり計画』を策定し、心の豊かさを実感できる快適な地域づくりを計画的にすすめておりますが、緑化情報の一元化を図るとともに、多様化する緑化樹のニーズに対応するため、本年4月1日、林業試験場に“緑化樹センター”が開設されました。

このセンターは、緑化樹の生産や需要情報の収集と提供、優良品種の創出、維持管理技術の開発などを主な業務とし、需給の安定化のための行政的な役割と技術開発のための研究機能を持った組織となっています。

緑化樹の総合的な情報拠点としての機能を十分に発揮するためには、緑化樹センターに対して関係団体や関係機関が共通の認識に立ち、関係者相互の理解や緊密な連携と協力が何よりも大切であると考えております。

緑化樹センターが、地域の町づくりのサポーターとなり、本道全体がみどり豊かなすばらしい環境に生まれ変わるための情報拠点として、皆様に信頼され、気軽にご利用いただけるように職員が心を一つにして懸命に努力する決意でございますので、関係各位の今後のご協力、ご支援をよろしくお願いいたしまして、開所にあたってのご挨拶といたします。



開所式の様子



記念植樹の様子

緑化樹センターの組織機構は、次のとおりです



緑化樹センターの主な業務内容は、次のとおりです

○新しい緑化樹の研究開発

北海道に適した優良品種の創出など、新しい緑化材料の開発を行い、組織培養による増殖など低コストな生産技術の開発を行っています。

○緑化樹の維持管理技術の開発

道路や河川など、身近なみどりの景観や環境に配慮した樹種の選定や植栽木を健全に生育させるための維持管理技術の開発を行っています。

○緑化樹の見本展示

新品種や新しい緑化資材の展示と、環境への適応性などの研究成果を普及するため、見本園を整備します。

○緑化技術の指導普及

緑化樹の生産や維持管理に関する技術を普及するため、広く道民を対象とした技術講習会を開催し、各種のマニュアルを作成します。



緑化樹関係の技術研修

○緑化情報の収集と提供

緑化樹の新しい品種や生産、流通、技術開発に関する情報を収集し、普及誌などを通して道民や関係者に提供します。

○緑化の普及啓発

緑化意識の高揚を図るため、情報誌を発行し、緑化教室、緑化パネル展などを開催します。



伐根を利用した緑化

生産技術科が取り組んでいる課題

○ハマナス類交配種の品種登録に向けた特性調査（H10～11）

北海道に適した新しい緑化樹をつくり出すために、道内に自生するハマナス、ヤマハマナス、オオタカネバラ、ノイバラ、及びヨーロッパ中部原産で道内にも植栽されているルブリフォリアバラなどを用いて、種間交配による優良品種の開発を進めています。

現在は、交配した実生苗の中からこれまでとは異なった花の色や形態を示す固体を選抜し、それらの増殖方法の検討と品種登録に向けた特性調査に取り組んでいます。

○緑化樹の組織培養による苗木生産技術の開発（H8～13）

緑化樹を安定的に供給するために、これまで、栄養繁殖（さし木、接ぎ木、取り木など）が難しい樹種について、組織培養による増殖方法の開発を進めています。

すでに、サクラ類の組織培養技術を開発し、民間にも技術移転を行っていますが、他の緑化樹について増殖技術の確立を目指しています。

○北海道型緑化樹の変異個体の収集と特性調査（H9～11）

北海道の郷土樹種を対象とした新しい緑化樹をつくり出すために、苗木生産者の協力を得て、現在、アカエゾマツやドドマツなどの実生苗の中から、樹形が丸くなる個体やわいせいの個体、葉が黄色い個体などの変異個体を収集し、その形質などについての調査を進めています。



ハマナス類の交配種



サクラ類の組織培養

管理技術科が取り組んでいる課題

○海岸地帯に適した耐塩風性緑化木の選定（H11～14）

近年、港湾施設周辺や海岸地帯の緑化事業が進められており、海岸緑化に適した緑化樹の需要が高まっていますが、適応できる樹種や産地が未解明の状況にあります。そのため、塩風に強い性質を持つ郷土樹種とその産地を解明し、緑化樹として効率的に増殖するための研究を行っています。

○木本類を用いた斜面緑化工法の開発（H10～12）

道路^{のりめん}法面などの斜面緑化には、これまで外国産の牧草種子が吹き付けされてきましたが、時間の経過とともに衰退するケースが多く見られ、また、外来植物による景観上の違和感などの問題点も指摘されています。現在、木本類の幼苗や種子を吹き付けるなど、法面に郷土の樹木を導入する新しい技術開発に取り組んでいます。



対塩風性ミズナラ（左）と普通のミズナラ（右）



道路法面への木本導入試験

他の機関と共同で取り組んでいる課題

○組織培養によるナナカマドクローン苗木の生産技術の開発（H11～13）

J A美唄との共同研究で、ナナカマド優良個体の組織培養による効率的な増殖方法の開発を行っています。また、培養で増殖した個体は、苗畑で施肥、順化時期などの栽培試験や生育調査を行い、「組織培養を利用したクローン苗生産マニュアル」の作成を目指しています。

○CGを利用した景観設計システムの開発（H11）

工業試験場及び民間会社との3者による共同研究で、CG（コンピュータグラフィックス）を利用した緑化による景観設計のシステムを開発しています。当场では、樹木写真の収集や樹木の成長予測式の作成などを担当しており、このシステムを開発することにより、緑化したい場所に樹木を植栽した場合の景観や植栽された樹木の成長にともなう景観の変化を、現地と樹木の写真をもとにしたリアルな画像で表示することが可能になります。



ナナカマドの組織培養



CGによる景観シミュレーション

緑化樹Q&Aコーナー

Q. 北海道ではどのくらいの種類と量の緑化樹が養成され、払い出されているのでしょうか？

A. 平成10年12月現在の調査によると、143の生産者が道内で養成している緑化樹の本数は、合計約511万本です。養成地別では、上川と十勝支庁管内が圧倒的に多く、両支庁管内で全体の6割近くを占めています。なお、平成10年の調査では生産者からの報告件数が、前年度に比べて減少しているため、単純に比較はできませんが、前年度より136万本の減少となっています。

養成している樹種数は約250種ですが、変種・園芸品種を含めると350種以上になります。養成数量の多い上位10種は表に示すとおりで、これらの樹種で全養成本数の半分以上を占めています。また、上位10種に針葉樹が6種、道内に自生している樹種、いわゆる郷土樹種が6種含まれています。

一方、平成10年の緑化樹の払出量は170万本で、前年に比べて40万本の減少となっています。払出量の多い樹種は、養成本数と同様に上位10種で全払出本数の半分以上を占めています。払出量の多い上位10種では針葉樹と広葉樹が半分ずつであり、郷土樹種は6種含まれています。養成本数では上位10種に登場しないハマナスやアキグミが払出本数では上位に入ってきています。なお、払出先は道内が約7割、道外が約3割となっています。



ナナカマド

表 道内で苗木の養成本数が多い樹種と払出本数が多い樹種

順位	養成		払出	
	樹種名	本数	樹種名	本数
1	ヨーロツパトウヒ	39.4万本	ハマナス	17.6万本
2	ニオイヒバ	32.0	ヨーロツパトウヒ	15.6
3	ナナカマド	31.1	アカエゾマツ	9.3
4	イチイ	28.6	エゾヤマザクラ	8.0
5	プンゲンストウヒ	25.5	モンタナマツ	7.8
6	アカエゾマツ	23.9	アキグミ	7.5
7	モンタナマツ	23.1	ニオイヒバ	6.5
8	エゾヤマザクラ	23.1	ハルニレ	6.3
9	ハルニレ	20.5	ナナカマド	6.3
10	シラカンバ	15.8	プンゲンストウヒ	6.2

緑化相談等の経過 (4月～6月 関係分のみ記載)

1 現地技術指導

期 間	事 業 ・ 指 導 名	場 所	対 象 者	派 遣 職 員
4月22日～ 23日	漁港のみどりづくり事業 (五勝手漁港)	江差町	檜山支庁水産課・林務課 職員ほか	清水管理技術科長 山田研究主任
	海岸段丘地の緑化 (南が丘小学校)	江差町	檜山支庁林務課・江差町 職員ほか	〃
	公園植栽木の管理方法 (開陽丸公園)	江差町	〃	〃
5月12日～ 14日	伐根移植による緑化 (遠別川)	遠別町	留萌土木現業所職員	清水管理技術科長
	キャンプ場枯損木の復旧 (兜沼オートキ ャンプ場)	豊富町	宗谷支庁林務課・豊富町 職員	〃
	伐根移植による緑化 (下エコロベツ川)	豊富町	稚内土木現業所職員ほか	〃
	伐根移植による緑化 (頓別川)	浜頓別町	〃	〃
	公園植栽木の管理方法 (河畔公園)	歌登町	歌登町職員	〃
5月17日～ 19日	伐根移植による緑化 (尻別川)	喜茂別町	小樽土木現業所職員ほか	佐藤生産技術科長
	桜堤の造成 (朱太川)	寿都町	寿都町職員ほか	〃
	道路法面への木本導入方法 (倶知安ニセ コ線)	蘭越町	小樽土木現業所職員ほか	〃
	道路法面への木本導入方法 (岩内洞爺湖 線)	共和町	〃	〃
	桜堤の造成 (堀株川)	共和町	共和町職員ほか	〃
	サクラの維持管理方法	泊村	泊村職員	〃
	公園植栽木の管理方法 (徳洋記念公園・ 南緑地公園・奥尻港公園)	奥尻町	檜山支庁林務課・奥尻町 職員	清水管理技術科長 山田研究主任
5月25日～ 27日	急傾斜地崩壊対策事業 (根崎)	熊石町	函館土木現業所・熊石町 職員ほか	〃
	ダム排土地の緑化 (上ノ国ダム)	上ノ国町	函館土木現業所職員ほか	〃
	急傾斜地崩壊対策事業 (福山)	松前町	〃	〃
	河川改修に伴う河畔林造成 (茶路川)	白糠町	釧路土木現業所職員	清水管理技術科長
	生物的河川護岸工法の検討 (茶路川)	白糠町	〃	〃
6月2日～ 3日	道路法面の緑化 (クチヨコ原野塘路線)	標茶町	建設部道路整備課・釧路 土木現業所職員ほか	〃
	道路防雪林造成方法 (川北茶志骨線)	標津町	〃	〃
	伐根移植による緑化 (雨龍川)	幌加内町	札幌土木現業所職員ほか	清水管理技術科長 山田研究主任
6月9日	伐根移植による緑化 (雨龍川)	幌加内町	札幌土木現業所職員ほか	清水管理技術科長 山田研究主任
6月10日	道路法面への木本導入方法 (土別滝上 線)	朝日町	建設部道路整備課・旭川 土木現業所職員	清水管理技術科長
6月23日～ 25日	溪畔林の造成 (鹿部押出沢)	鹿部町	函館土木現業所職員	山田研究主任
	砂防ダムの袖部の斜面の植生回復 (白浜 川)	恵山町	〃	〃
	トンネル抗口上方の緑化 (函館南茅部 線)	函館市	〃	〃

6月28日～ 29日	道路法面の緑化（臼尻豊崎線）	南茅部町	函館土木現業所職員	山田研究主任
	道路法面の緑化（霞台森停車場線）	森町	〃	〃
	伐根移植による緑化（広内川）	新得町	帯広土木現業所職員・新得町職員ほか	山田研究主任
	ビオトープの形成（鹿追町）	鹿追町	帯広土木現業所職員・鹿追町職員	〃
31件				

2 講師派遣

期 間	研 修 名	対 象 者	受講者	場 所	派遣職員
4月29日	岩見沢市市民園芸講座	岩見沢市民	40	岩見沢市	佐藤生産技術科長
5月21日～ 23日	'99オホーツク「木」のフェスティバル 「さし木教室」	北見市民ほか	180	北見市	佐藤生産技術科長 滝谷研究職員
5月25日	「十勝らしい緑グレードアップ研修会」	十勝支庁管内 市町村緑化担 当職員ほか	30	帯広市	佐藤主任研究員
5月26日	森林とみどりの技術者養成セミナー 「緑化技術者養成講座（Ⅰ）」	市町村・森林 組合職員、緑 化関係者	4	林業試験場	錦織研究職員
5月10日～ 6月11日	国際協力事業団中国個別「寧夏森林保護 研究計画」コース	寧夏森林保護 研究中心助手 研究員	1	林業試験場	錦織研究職員
6月18日	札幌道路事務所維持管理関係請負工事 安全連絡協議会植栽維持部会	国職員、道路 維持管理請負 業者ほか	35	札幌市	佐藤主任研究員
6月24日	日本情報地質学会第10回総会・講演会 「特別講演」	学会員・市民	40	札幌市	清水管理技術科長
6月27日	岩見沢道有林管理センター 木のフェスティバル「さし木教室」	岩見沢市民ほ か	100	岩見沢市	佐藤主任研究員 山田研究主任 滝谷研究職員
8件			430人		

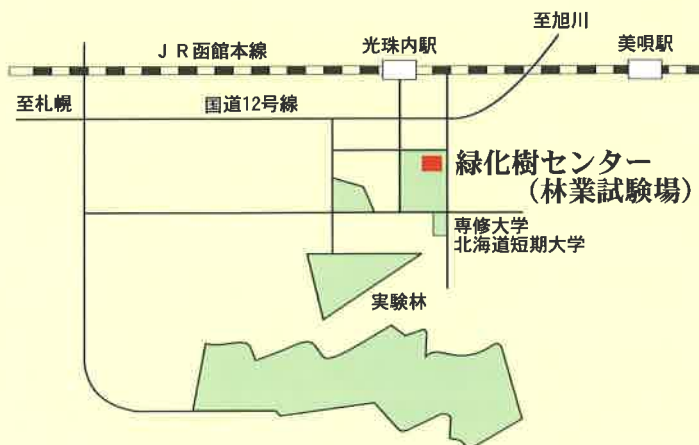
3 緑化相談

4月	7件
5月	6件
6月	27件
計	40件



現地協議の様子（奥尻島）

緑化樹センターの位置



- 函館本線光珠内駅下車 徒歩10分
- 国道12号線中央バス専大入口下車 徒歩8分



グリーンダイヤルは
あなたのダイヤルです。



「緑化樹」や「緑を育てる」質問・相談をお受けしています。
お気軽に電話してください。すばやく、詳細な情報をお届けします。

連絡先

緑化樹センター(林業試験場) TEL 01266-3-4164 FAX 01266-3-4166
 林業試験場 道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
 林業試験場 道東支場 TEL 01566-4-5434 FAX 01566-4-5434
 林業試験場 道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
 ホームページ <http://www.hfri.bibai.hokkaido.jp/>

試される大地
北海道

発行年月 平成11年8月
 編集・発行 北海道立林業試験場 緑化樹センター
 〒079-0198
 北海道美唄市光珠内町東山